

【0052 信濃国水内郡鬼無里村関係文書】

1、資料群概要

受入番号：0052

資料群名称：信濃国水内郡鬼無里村関係文書

作成主体：大崎正治

資料年代：正徳3年（1713）～明治38年（1905）

要約：本資料群は、大崎正治氏（元國學院大学経済学部教授）によって寄贈された近世～近代の信濃国水内郡鬼無里村に関する古文書である。

総量：26点

2、資料群の管理と利用に関する情報

利用の形態：原本

出所：0052 信濃国水内郡鬼無里村関係文書（以下本資料群）は、元々2011年3月24日、大崎正治氏より【0018 大崎正治氏寄贈開発・生活環境関係資料】の一部として本アーカイブズに寄贈された。しかしながら、本資料群は0018とは資料の性質・内容が大きく異なることから、別途0052の受入番号を割り振った。本資料群も含めた移管の経緯については、【0018 大崎正治氏寄贈開発・生活環境関係資料】資料群概要を参照されたい。

整理方法：本資料群の整理にあたっては、アイテム1点ごとに中性紙封筒に封入し、ナンバリングした。

請求番号 0052-****（4桁の数字）

利用制限：環境アーカイブズ所定の個人情報取扱に準じる。

引用する場合の表記方法：信濃国水内郡鬼無里村関係文書、各請求番号、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ所蔵

関連する資料群：0018 大崎正治氏寄贈開発・生活環境関係資料

3、目録凡例

①帳1冊、あるいは状1通を1アイテムとし、資料名・和暦・西暦・作成・宛先・内容物・形態・備考を記載した。

②資料名：原則として原資料に記載された表題をそのまま使用した。但し、原資料に記載がないなど不明な場合は、適宜 [] 内に資料整理担当者が付与した名称を表記した。

③作成年：作成年は資料の表題等に記載される和暦を使用し、別欄で西暦を補った。原資

料に記載がないなど不明な場合のうち、作成年・時代が推測される場合は、() 付で記載した。

- ④内容物：複数の帳簿が一つに纏められているなど、1つの資料内に他の資料が綴じられている場合に、内部の資料の表題等を記載した。

4、資料群の内容

本資料群は鬼無里村（現・長野市鬼無里）に関係する古文書群である。鬼無里村は水内郡のうちであり、東は戸隠村（現・長野市）、南は小川村や中条村（現・長野市）、西は北安曇郡小谷村・白馬村と接する中山間地域である。また北は越後国頸城郡（現・新潟県妙高市）と接する国境の村である。近世には松代藩領であり、元禄年間に松代藩によって作成された「信濃国絵図仕立帳」の添目録（『新編信濃史料叢書 第23巻』所収）には、枝郷 61 ヲ村が記されている。生業の多くは畑地稼ぎであり、特に麻の栽培が盛んなほか、木炭焼きも見られる。

大崎氏の手元に渡る以前の経緯は不明なものの、文書中の署名や注記から、枝郷の中でも岡村の小林新兵衛家に伝来していたものと推測される。現在集落名として残っている岡は、長野市鬼無里支所の北東約 2km に位置しており、近くには裾花川の支流・小川が流れている。また、鬼無里村は本資料群中の時期には、下新倉・上新倉・松原・山内・平・峯・東京・町・小鬼無里・高橋・下又の 11 組に編成されており、岡村は小鬼無里組として文書中に見える。『鬼無里村史』によると、寛文 6 年（1666）以降の役名の控に慶応 4 年（1868）の割元として小林新兵衛の名が見えるほか、岡の公民館前には筆子による小林新兵衛の頌徳碑（明治 22 年（1889）建立）が残されている。ほか、本資料群中にはしばしば吉重の名も見えるが、天保年間の岡村には「小林吉重良」（『寺島宗伴門弟集』〈『長野県教育史 第 8 巻』所収〉）、「小林吉重重賢」（松巖寺奉納算額〈『長野県の算額』所収〉）という人物がおり、時期的に本資料群中の吉重とは同一人物と推定されることから、吉重（吉重良重賢）は小林家の人物と考えられる。

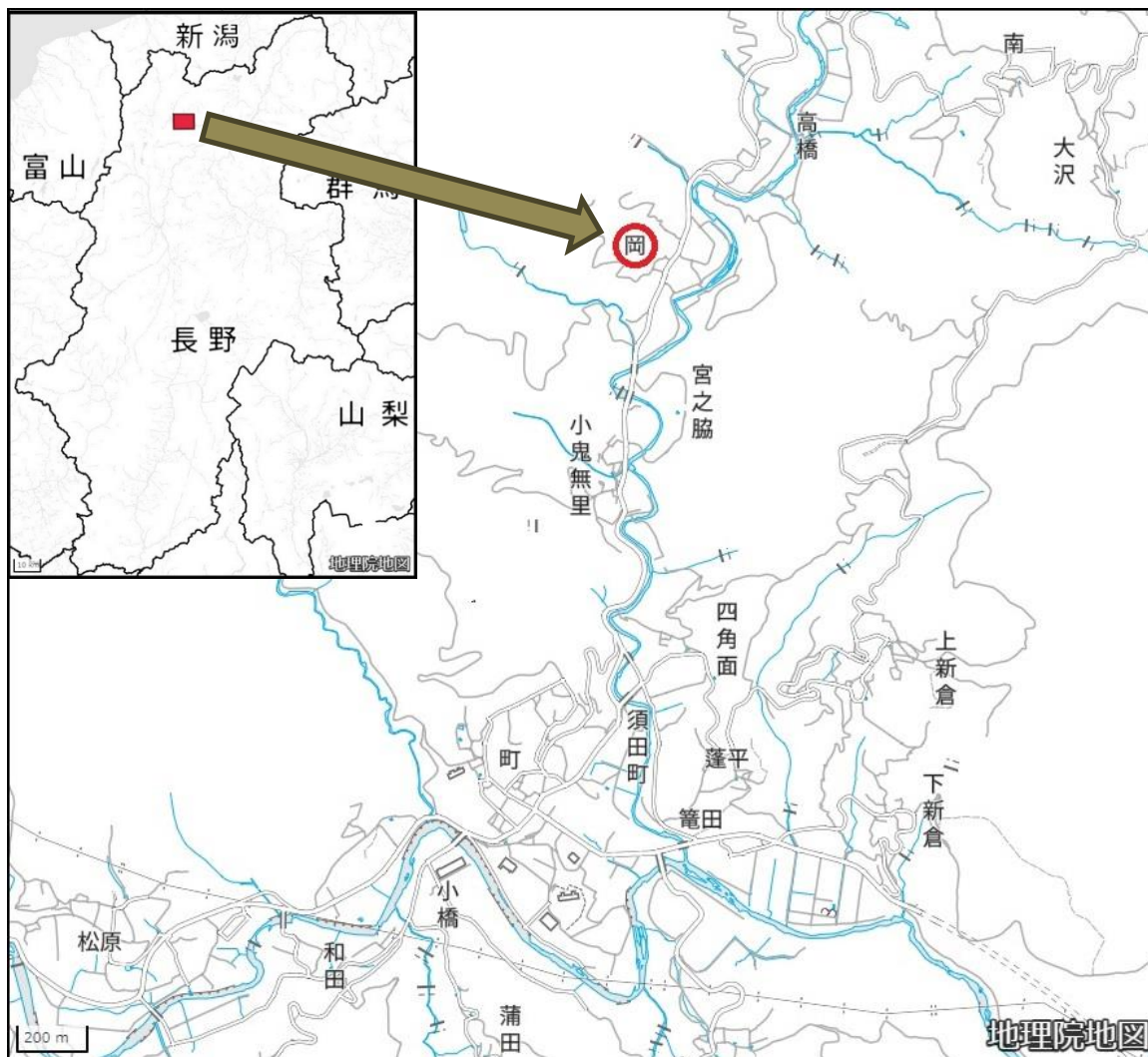
文書の内容としては、大まかに弘化 4 年（1847）の善光寺地震に関する諸記録、普請帳、近隣村落の相論の和談書の 3 種類に分けられる。

善光寺地震に関する諸記録としては、地震によって起きた土砂崩れに対する費用などの記録がある。また、先例として天明 6 年（1786）の村内救済の記録の写しもあり、これらは全て 1 つに合冊されている。普請帳としては、小川やその本流にあたる煤花川の川除・道橋の普請にかかる人足・費用や、松巖寺の葺替に必要な部材を分担した記録などがある。和談書は鬼無里村の枝郷同士の山論や、冷澤での筏流しをめぐる争論の内済証文などである。また、和談書の中でも、峯村と平村の入会山の相論をめぐる関係文書については、「峯平両組高ト尾規定書」と題された袋に一括して残されていた。

ほか、本資料群には洗馬村（現・長野県塩尻市）役場の「営業開廢届書綴」のコピーも含まれている。このコピーは大崎氏より追加寄贈されたものであり、鬼無里村古文書とは

内容が異なる資料であるが、長野県の古文書として一括で保管されていたため、同一資料群に含めた。

●現在の岡周辺地図



※青色は河川を指す。長野県全図、岡周辺地図ともに地理院地図 Vector を基に作成。

(<https://maps.gsi.go.jp/vector/#7/36.104611/140.084556/&ls=vstd&disp=1&d=1>)

【参考文献】

赤羽千鶴, 木村喜久雄, 中村信弥 『長野県の算額』 (大阪書籍、1964年)

鬼無里村史編集委員会 編 『鬼無里村史』 (鬼無里村、1967年)

信濃史料刊行会 編 『新編信濃史料叢書 第23巻』 (信濃史料刊行会、1979年)

長野県教育史刊行会 編 『長野県教育史 第8巻』 (長野県教育史刊行会、1973年)

長野県立歴史館 HP 古文書目録名検索「水内郡鬼無里村市野瀬組文書」詳細情報 (2024年8月5日閲覧)

<https://www.npmh.net/books/komonjo/2020/05/99-36.php>

【関連文献】

西本正 編『源』（鬼無里村青年団、1934年）

目録作成 武田真幸

2024年7月

資料群概要作成 玉土大悟

2024年8月